

ツルツルとガサガサ

ボールについてここまでいろいろとご紹介をしてきましたが、今月もボールについて少しお話しをしていきたいと思います。

前々回の会報の内容を覚えていらっしゃるでしょうか？ボールの持つオイルへの強さについて書きましたが、ボールそのものが持つ潜在能力とともにオイルへの対応性を左右する要素があります。

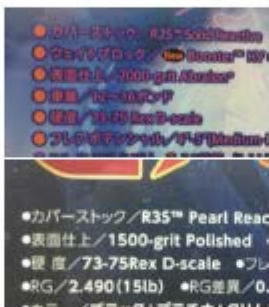
それは表面加工です。プロショップにはボールが展示してありますが、ボールの表面がツルツルしていたりガサガサしていたりするボールがあります。これにはしっかりとした意図があります。一般的・基本的な考え方とは異なりますが、ガサガサしたボールはオイルに強くツルツルしたボールはオイルには弱くスキッド感があります。



ルはオイルの上では摩擦が少ないため滑りやすくするためあまり曲がりません。わかりやすい例として、雪道を歩く際、靴靴のような底がツルツルした靴では滑ってしまいます。しかしスパイクのような靴であれば雪で

もしかかりグリップするので滑らずに歩くことができます。ボウリングも考え方としては同じです。よって同じボールであっても、表面がツルツルしているかガサガサしているかでは曲がり方・曲がり幅は異なってきます。

カタログ上では表面仕上げの欄に「ポリッシュ」記載されているボールはツルツルしたボールとなります。



「〇〇番アブラロン」などと記載されているものはサラサラしています。またこの数字ですがヤスリの番手を表しています。数字が小さい

ほどより粗い仕上げとなります。もう一つ気をつけなければいけないのは、表面はゲーム数を重ねればだんだん変化していきます。投げていてボールが曲がらなくなったというときや走らなくなったというのはこういったところも要因の一つになります。普段からクリナーなどでメンテナンスはされているかと思いますが、定期的な表面加工（リサファイニング）も必要になります。メーカーによっては六十〜百ゲームでのリサファイニングを推奨していますので参考に見てみてください。

（ドリラーのひとりごと 第30話）
メンテナンスマシン

ボウリング場の端のほうにおいてあるこの機械・・・いったいなにをする機械かご存知ですか？
実はこの機械でレーン上にオイルをひいていきます。ただオイルをひくだけではなく、クリーニングしながらもとひいてあったオイルを落としながら新たにオイルをひいていきます。機械の構造としては



機械の前方でクリナーを噴出させ中間部にはパキュームがセットされており、古いオイルとともにクリナーを吸い込みます。そして機械後方でオイルをレーン塗布していきます。

昔は当然ながらこのような便利な機械はありませんでしたので、全て手動でオイルをひいていました。実物の写真はありませんが、グラウンド整備をするトンボのようなものを使用していますが、自分も実際にやったことありますが、そう簡単なことではありませんでした。機械のありがたみをつくづくと感じてしまいます。

<筆者>

佐取賢ア (44期)
JPBA/PBA 7 級 ヴァー
JPBA B 級 ストラクチャー
JBC 公認 ドリラー